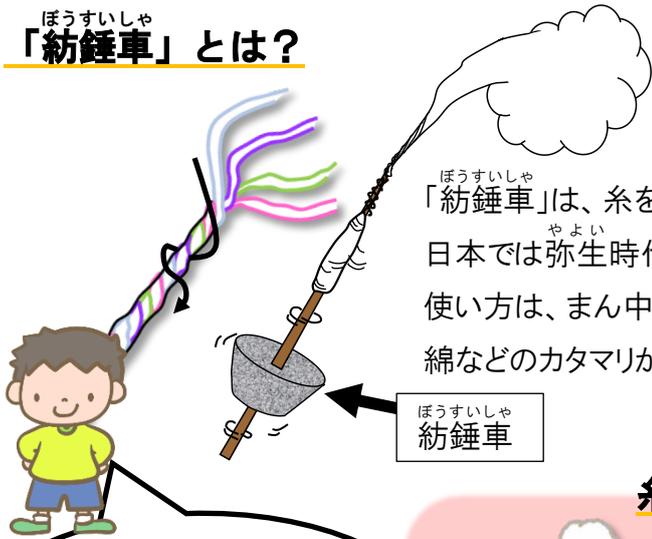
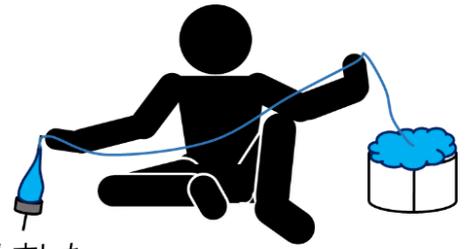


# ぼうすいしゃ 紡 錘 車 で 糸 を つく ろ う !

## ぼうすいしゃ 「紡錘車」とは?



ぼうすいしゃ  
「紡錘車」は、糸を「紡ぐ」道具です。  
日本では弥生時代くらいから使われはじめました。  
使い方は、まん中の穴に棒を通し、コマみたいにくるくる回して、  
綿などのカタマリから繊維を引き出し、ヨリをかけて糸にしていきます。



ぼうすいしゃ  
紡錘車

## 糸はこんなものからできています。



めんか もめんいと  
綿花→木綿糸

かいこ まゆ きぬいと  
蚕の繭→絹糸

あさ  
麻などの植物  
→麻糸など

動物の毛→毛糸

糸は細い繊維にヨリをかけて  
まとめることで、  
一本の太い糸にするんだよ。

## はせつかべのとりまる ぼうすいしゃ 「文部鳥麻呂」の紡錘車

こぼりいせき  
小針遺跡(行田市小針)から出土した平安時代頃の紡錘車です。  
直径約4.5cmの円すい台形で、蛇紋岩という石でできています。

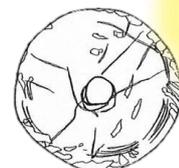
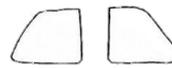
側面には「文部鳥麻呂」という名前が刻まれています。  
「文部」は、地方から出向き、古代に朝廷の警備などをした人々です。  
おそらくこの地域で暮らしていた豪族の1人だったのでしょうか。

ぼうすいしゃ  
紡錘車は、糸紡ぎだけではなく、いのりやまじないをする  
まつりの場でも使われていたようです。  
他にも文章や絵などが刻まれた紡錘車などが  
遺跡から出土することがあります。

むかしの人は、紡錘車にどんな願いをかけていたのでしょうか。



文部鳥麻呂



# 自分だけの「紡錘車」をつくって、糸紡ぎにチャレンジ!



## 【材料】

ねん土(大人の手の半分くらい)  
棒(1本)  
ようじやへら  
ゼムクリップ(1こ)  
テープ  
わた  
綿

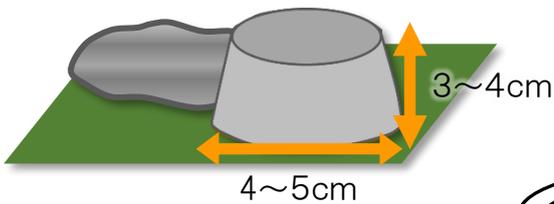
かわいても重みがあるもの。あぶらねん土でもだいじょうぶ。  
丸みのあるわりばしが使いやすいです。  
ねん土に文字や絵を刻みます。  
のばしてフックにします。  
セロテープまたはマスキングテープなど  
ふとん綿など、繊維が長いもの。

## 1. 「紡錘車」をつくります。

ねん土をこねて、4~5cmの円すい台に形に整えます。

紡錘車のまわりにあなたの名前や絵を刻みましょう。

棒を差し、しっかりと固定します。クリップをフック状に曲げのばし、棒の先にテープで止めます。



イラストやもようもステキ!



完成!!



## 2. 糸紡ぎにチャレンジ!

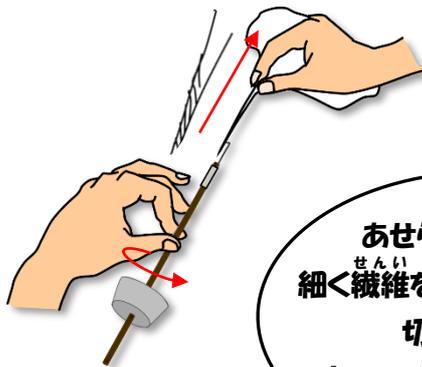
綿をほぐしてフックにはしっこをひっかけます。

少しだけ繊維を引き出し、紡錘車をくるくる回転させてヨリをかけます。

ヨリがかかったら、ゆっくり繊維を引き出して紡錘車をコマのように回転させ、またヨリをかけます。



フフフフに  
してね!

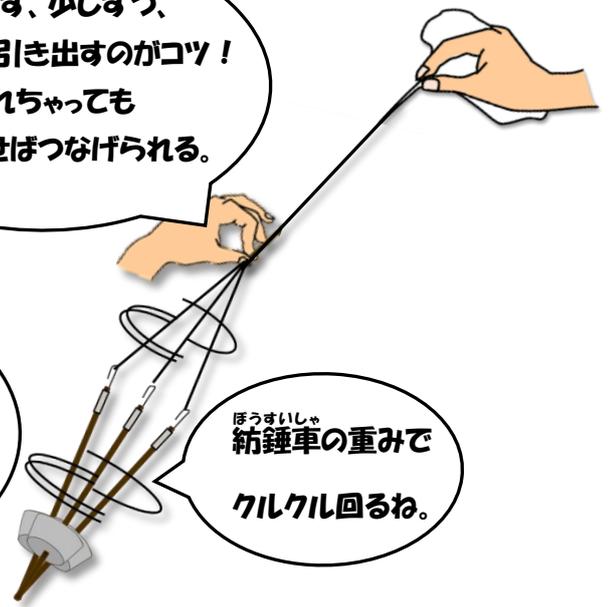


あせらず、少しずつ、  
細く繊維を引き出すのがコツ!  
切れちゃっても  
少しほぐせばつなげられる。

引き出しては回し、引き出しては回しをくり返します。  
肩幅くらいまで糸が出来たら棒に巻き取り、また繊維を引き出します。



最初は15cmくらいの長さを  
めざそう!  
できた糸を2本どりにして  
もう一度ヨリをかけると  
丈夫になるよ。



紡錘車の重みで  
クルクル回るね。